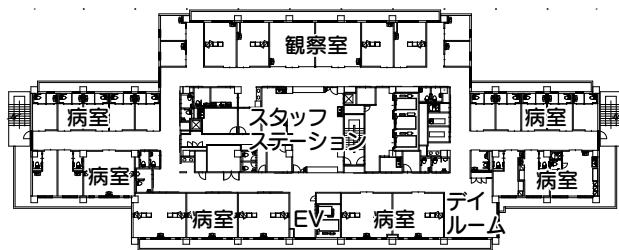
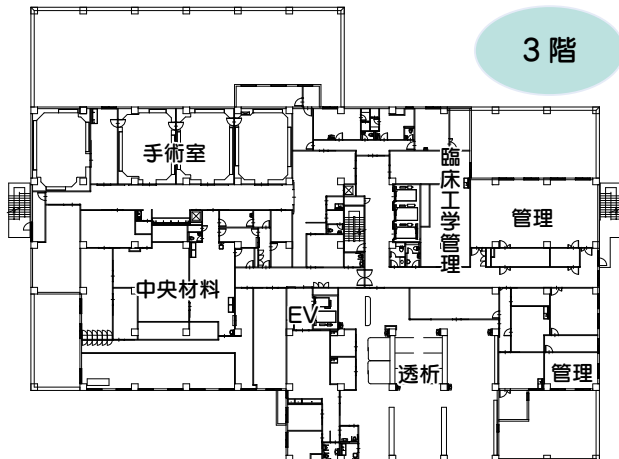


## ▶ 新市民病院平面図

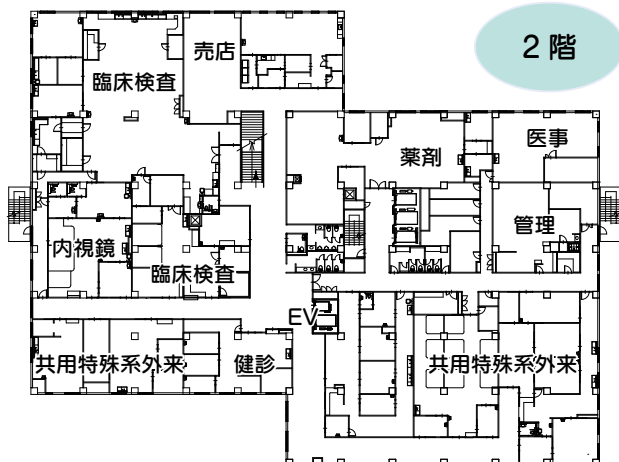
5～7階



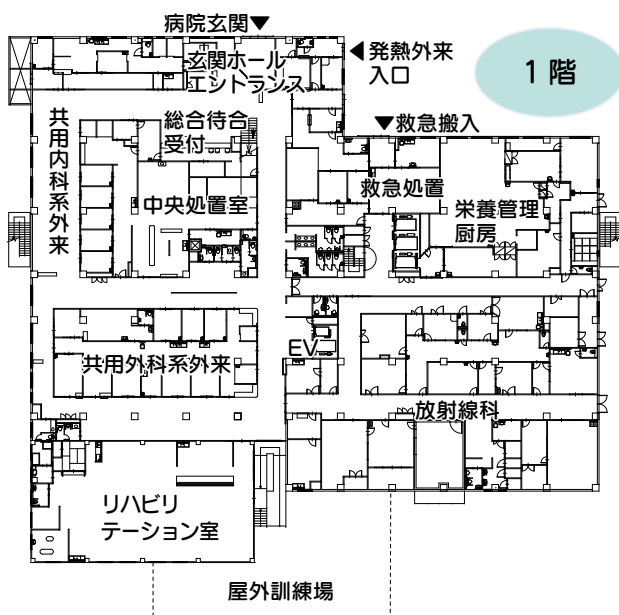
3階



2階



1階



## 5～8階 【病棟】

- ◆ 一般用エレベーター (EV) はスタッフステーション正面に配置し、出入チェックが行えるようにします。スタッフステーションはフロア中央に設け、看護動線を短縮します。またステーション正面に観察室(2床室)を配置し、重症患者の観察を容易にします。
  - ◆ 感染症対応の病室を設定します。
  - ◆ 病室は、個室の比率を高めます。
  - ◆ 8階は、全室個室の産科を中心に、婦人科等の病室を配置し、女性専用のフロアとして計画します。産科中心となる個室は、まとめて配置し患者のプライバシーを確保します。
- ※ 8階は、5～7階とは部屋構成が異なります。



## 4階 【管理】

## 3階 【手術・透析】

- ◆ 透析部門はベッド数 30 床に対応できる面積を確保し、感染対策として十分なベッド間隔を確保します。
- ◆ 手術室は 4 室設置します。

## 2階 【外来・検査】

- ◆ プライバシーを考慮し、泌尿器科、産婦人科は人通りの少ない 2 階へ配置し、専用の待合室を設置します。健診、臨床検査、内視鏡部門を隣接させて配置します。また 1 階への動線を考慮し健診、臨床検査部門は一般用エレベーターとも隣接させます。

## 1階 【外来・放射線・リハビリテーション】

- ◆ 病院玄関と受付・総合待合、患者の多い内科・整形外科・外科外来を配置します。
- ◆ 感染の疑いがある患者に対応する外来部門諸室を配置し、外部からは専用入口を設けます。
- ◆ 患者動線とスタッフ動線を分離し、診察室後部にはバックヤードを設けます。
- ◆ 診察室を、外光が入る明るい待合が囲むレイアウトとし、突き当たりがなくわかりやすい患者動線とコンパクトな平面とします。
- ◆ 診察室は扉のある個室として患者プライバシーを確保します。
- ◆ 救急外来と放射線科、および手術室への搬送用エレベーターを隣接させ、迅速な救急対応を可能にします。
- ◆ リハビリテーション室は本体建物と別の構造体とし、見通しのよい無柱空間を確保します。外部には屋外訓練場を配置します。

※ 新病院の平面図・イメージ等は、現段階の図面をもとに描いたもので、実際とは多少異なる可能性があります。